

議事録要旨

会議名	平成30年度 第2回 稲城市地域交通会議
会場日時	平成31年3月25日（月） 午後2時～午後3時30分
会場場所	稲城消防署3階 講堂
出席者及び欠席者	<p>（委員）</p> <p>鈴木文彦会長、川島幹雄副会長、古谷弘文委員、田崎達久委員、藤原廣彦委員（代理 渡辺氏）、進藤直人委員、富原広美委員、城所正男委員、田中純正委員、大野幸博委員、後藤田英俊委員、二見信義委員、川崎信一委員、牛尾陽一、堀田耕一郎委員、亀山茂委員、柳瀬光輝委員（代理 石川氏）高山孝夫委員、秋元久司委員（代理 高橋氏）、武藤路弘委員、松本葉子委員</p> <p>（事務局）</p> <p>都市建設部長 吉野、管理課長 吉屋、管理課交通対策係長 宇田、管理課副係長 城所</p> <p>（欠席者）</p> <p>依田修委員、露木輝久委員、大木隆委員、田渕昌男委員、阿部葵委員</p> <p>傍聴者 0人</p>
会議次第	<p>1 都市建設部長挨拶</p> <p>2 議題</p> <p>（1）i バス乗降調査の結果について（報告）</p> <p>（2）下平尾地区の交通不便地域へのアンケート調査結果について（報告）</p> <p>（3）下平尾地区の交通不便地域への対応について</p> <p style="padding-left: 20px;">○ 交通不便地域での小規模コミュニティ交通の実証実験等</p> <p style="padding-left: 40px;">・福祉施設の空き車両を利用した手法</p> <p style="padding-left: 40px;">・タクシー車両を利用した手法</p> <p>（4）その他</p>

1. 建設部長挨拶

部長 （挨拶）

2. 議題

会長 （挨拶）

それでは、議題の順で議事を進めていく。

まず、i バス乗降調査の結果について（報告）を事務局から説明をお願いしたい。

（1）i バスの乗降調査の結果について（報告）【資料1】

会長 ただいまの事務局の報告、i バスの乗降調査実施結果について、何か質問・意見等はあるか。

事務局 市民代表合同検討会やバス事業者検討会では既にご説明しているが、この内容については、ホームページに掲載する。

会長 車内人数図という、路線図上に起こした各路線ごとの図を見ると、利用実態のかなりの部分がわかってくる図になると思う。先程の報告事項については、何かあれば事務局のほうへお伝え願いたい。

それでは、議題の（２）下平尾地区の交通不便地域へのアンケート調査結果について、事務局より説明をお願いいたします。

（２）下平尾地区の交通不便地域へのアンケート調査結果について（報告）【資料２】

会長 ただいまの事務局の報告にご質問あるいはご意見はあるか。

委員 最後の個人的な意見だが、複数回答している可能性があるわけで、概略がわかると少し違うかな。

事務局 データは全てあるので、何件とかいう形にもできると思う。次回の会議にはお出しできるように、データをそろえたい。

会長 最後のページにあるように、今は困っていないが、将来必要になったときには欲しいという意見が今は一番多い時期だと思う。この辺を見ながら、今、何を考え、何をしていくかというところ、これからご議論になるかと思う
ほかにあれば、事務局にお伝え願いたい
それでは、議題の（２）はほかに質問がないようなので、議題の（３）に移らせていただきたい。

議題（３）下平尾地区の交通不便地域への対応について、事務局より説明をお願いしたい。

（３）下平尾地区の交通不便地域への対応について（説明）

会長 何か質問・意見はあるか。

委員 この実験は、とてもいいことだと思うが、実験の際の条件で、駅まで行くのか、駅に行かないでバス停までなのか、その辺によって乗る人の意向が違うと思うので、その辺はどういうふうにやっているのか。

事務局 この付近の駅は、新百合ヶ丘駅とか若葉台駅、もしくは栗平駅となる。新百合ヶ丘駅には当然バスも運行していない。まずは、買い物支援の観点から考え、地域の一番近いスーパーまで行けるように考えていきたい。平尾団地のバス停が一番現実的ではないかと事務局では思っている。また途中の平尾中央通りのバス停付近に降ろすことができれば、新百合ヶ丘駅方面や若葉台駅に向かうことも可能になるかと思う。地元の町会長とお話をしたときも、坂がきつくて上り下りが大変なので、とにかくその下まで行きたいというのがまず一番、何とかそこはやりたいというような話もある。

会長 他に。

委員 タクシーの車両の件ですが、乗り合いは、決められた場所、集まる集合場所から、自分が好きなところに行くというか、自分たちが好きなところに行くのか、それとも今言った平尾団地

まで行くのか。もう一つはお金はいくらぐらい払うのか。市がどのぐらい運行補助するのか、その辺を聞かせていただきたい。

事務局 基本的にはタクシー車両を使った乗り合い事業になるので、運輸局で許可をいただかないといけない。そうすると、基本的にバス停のようなものに、停まるという形で申請するのが考えられる。料金については、タクシーで美望会や向山会など、地域からタクシーを呼んで平尾団地まで行こうとすると、迎車の料金等もかかる。そこを考えると片道大体1,500円ぐらいだということなので、それを基本に1,500円から利用者から利用料金を引いて、例えば一人200円ということであれば二人乗れば400円と、残りの1,100円を市が補助するというような運行実験を今考えている。ただ、タクシーの料金については、いろいろ、料金の改定等もあるかと思うので、適宜そのときの金額というもので考えたい。

会長 ほかには。

委員 社会貢献活動の一つとして福祉施設の空き車両を活用という部分について、ある程度具体的な内容とかは出ているのか。

事務局 現在、ひらお苑には何度かお伺いして、平尾団地までのルートであれば、週1回ぐらいできるんじゃないかという話をいただいている。ただ、これも福祉車両を利用したボランティアの事業になるので、ルートを定めるべきなのか、それともおおむねのルートが決まっていて、そのときのお客さんの申し込みにより少しルートを変えるのか、そういったことも少し検討の中には入ってくるのかなと思う。ただ、福祉施設からは、社会貢献活動というものは、社会福祉法人としてやらなければいけないものになっているので、できるだけ早くやりたいというようなことで、早目にできればいいなと考えている。

委員 そうすると、これが30年度最後の交通会議だが、この中に、ここに書かれている内容で皆さんから議決をとるという話なのか、それともまた改めて来年度の交通会議第1回とかで内容を決めるという話にするのか。

事務局 タクシー車両に関しては、やはり申請許可の事項に係ると思っている。来年度に、ルート、時間、料金を地域公共交通会議にかける必要はあると考えている。

福祉施設の空き車両の利用については、市が主体となって行う事業ではなく、ひらお苑という社会福祉法人が行う事業なので、基本的には、ここの地域公共交通会議の場で議決をいただかなくていいと考えている。福祉施設と話をして、福祉施設のやれるタイミングにやっていただくというようなことを考えている。

委員 町田市の事例は、そちらのほうも相談を受けながら対応をしていたけど、やはり運転手、ボランティアとはいえ個人の方たちなので、運転者として、会社から教育を受けたりとか、毎日運転をされているという方ではないので、その辺の安全面の確保というのをどう考えていくのかという話とか、あとは、一般の自家用車で地域の方々を運ぶとなると、責任の対応とかど

うなるのかという話、あとはここにあるガソリン代というのも謝礼を市から支払うというものについても、その金額の内容によっては、いくら謝礼とはいえ、運送事業に該当してしまうということも考えられるので、市が主体ではないのでこの場ではとは理解はできるが、委員の方たちが思っているような内容ではないものになってしまう可能性もあり得る。実際何かあったときに、交通会議ではどんな話をしたのかということも考えられるので、もし実際にやるのであれば、ある程度詳細なものを皆さんに示したほうがよい。

事務局

車両については、まず、ひらお苑が持っているデイサービスで使っている車両、所有者はひらお苑になる。運転手は、ひらお苑のデイサービスの運転手をしている運転士。通常だと、午前中、午後、その時間だけ勤務になっているが、こういった送迎をするときには時間を延ばして、ひらお苑が賃金を支払って運行する、あくまでひらお苑の事業として運行をすると聞いている。我々も初めての事業になるので、混乱がないように運輸局としっかり相談して進めていきたい。このあたりの内容をひらお苑にも会議の内容を伝えて、実施時期等々相談していきたいと思う。

委員

後で構わないので、ちょっと車両の内容をもう一回細かく聞かせたい。

会長

私も気になるのが、早急にやりたいような話だが、今の段階での話の具合で本当にできるのか一つ気になっている。やはり、ある程度きちんとした形で固めて、少なくとも議決事項ではないが、やはり地域公共交通会議で交通にかかわることなので、これを報告できるぐらいのものがあって、皆さんに了解はいただくぐらいのことはする必要があるだろうと思う。それから、今後についてどうなるかというところは、今の段階でいうとひらお苑の意思に、全てによって決まることになると思う。小規模なコミュニティ交通の確保という観点から、議論や調整が必要かなと思う。

事務局

やはりトラブルにならないように相談しながら進めたいと思っている。

会長

議決事項でないので。皆さんの、合意のもとで進めていく必要があると思う。次の会議のときにこういう形でやりますというのはきちんと報告できて、その後から始めるぐらいのタイミングという考えもあるが。いかがか。

委員

私は逆で、まずやってみたらという感じはある。

委員

何でも可能性を感じられるものについてやっぱりチャレンジする必要があるじゃないか。

委員

これは、ひらお苑の社会福祉活動としてサポートしなければいけない。これを我々がどうこう言う問題でもないと思う。希望は言えると思いますけども、だからタクシー車両の実証実験とは別にやるわけですね。やっぱり社会福祉法人は社会福祉貢献活動をやるというふうに国から義務づけられている。やっとその気になっているときに、ちょっと待てよとごちゃごちゃやっているとやる気をなくしたりしますので。やる気になったところで行うのがいいんじゃないかな

いかと思う。

委員 市からの謝礼というのは、これは市が提案したものなのか。それともお互いの話でやったものなのか。

事務局 金額等々の提案は、市からしている形にはなる。こちらの相談に乗っていただいたところもある。

会長 地域の企業が社会貢献活動ということでやっていただいているので、これは単独でやろうとしていることなんで、任せてもいいのではないかなという感じはする。

委員 先ほど、会長さんが言われているように、ひらお苑さんと行政のほうでまだはっきりしていない部分を調整していただいて、先ほど関東運輸局の方が言われたように、事故があったりなんかすると運転士さんの分と保険の問題とかを報告いただきたい。

事務局 先ほど運輸局の方からもお話がありましたようにひらお苑と調整して、皆様にご報告させていただきます。

会長 ほかには。

委員 実際一つの運行自体は、そういったことを報告してからということか。

事務局 内容を詰めて、皆さんに報告してからと考えている。方法は会長と調整させていただきながら進めたいと考えている。

委員 経緯から言うと、そもそもこの会議で地域の社会福祉法人の活用というのは効果的ではないのかという話があり、市サイドのほうからひらお苑に声をかけて、そちらのほうで、前向きにご検討されていると。じゃあそういう形でやろうと積極的にご協力の体制を整えておられると。本件は、そういう、非常に、好意で前向きに先方が動いてくださっている話でございますから、会長から言われたような点を詰める必要があるにしても、また次回の交通会議を開いてというような、余り間を置いてやるというのは、良くないかと。先方と一緒に良いケースで行こうとしている場合だと思いますし、地域の方々の期待もあります。ですから、詰めるにしても地元の自治会としては、せっかくな機運・体制ができつつあって住民の方も期待しているところでございますから、水をかけるという言葉が適当かどうかわかりませんが、そういうことのないように、できるだけ速やかにトライという意味からやっていただきたい強い希望があります。

会長 そういうことであれば、少し詰め切れていないところをなるべく早急に詰めていただいて、皆さんにご報告できるようにしていただきたい。

委員 実証実験の時期について伺いたいが、今タクシーとひらお苑の2案があって、一時期は2台

で実験を行うということがあるのか。タクシーが実験をするときには、ひらお苑の運行をとめないでタクシーの実験にならないのかなと思うが。

事務局 基本的に同時期に運行することはあると考えている。社会福祉法人として社会貢献事業はやらなければいけないということなので、別軸で動いているものと考えている。この取り組みが続いている中で、タクシーのものはさらにプラスしてやる必要があるかどうか、やったらどれぐらいの乗客の方がいるかどうかというものを見るためにやるという実証実験の内容になると思う。

委員 住民の目線から見ると、ひらお苑さんのほうが先にサービスがスタートしたとして、大きな車両で無料で乗れるというものが、もう何回か経験された時期にタクシーが加わるということになると、タクシーには乗る人がいないのかなと思うが、実証実験ということであれば、タクシーの期間というのとひらお苑の期間というのを別にしないと、住民の800人とかという対象の方がどちらだったらどれぐらいの乗るのかという実験結果が見えないのかなと思うが。

事務局 運用は福祉法人のほうが週1回。タクシーは週2日って、だから別にかち合える形でやる必要はないと思う。できたらこれは1週間やってほしいと思うが、そういう運用ではないはずだから、かち合わない形でやっていただければ。実質はかち合っているようなイメージだけど、週1日と週2日では3日しかやっていない。

委員 アンケート結果で1週間に1回買い物に行けばいいみたいな話もあったので、時期はやはりずらしたほうが、曜日、月曜日から金曜日までどこがタクシーでどこがひらお苑みたいなのが振り分けられるというのはわかるが、結果としてどう、この数字は見えるのかなと思う。

事務局 ひらお苑は1週間の中で1日、それとタクシーの場合はもし認可がいただけるなら2日ということなので、その辺も、認可を取るに当たって、何曜日と何曜日という指定をされると思う。社会貢献は社会貢献として、皆様のご了解をいただければ、やり続けたいという希望が苑としてもあるはずで、行政のほうとしてもぜひやっていただきたい。それとは別の実験ということで、認可を取って料金を払って利用されるかどうか、もっと利用したいという意見になるのか、そのあたりが確認できると考えている。

委員 住民として、例えば金曜日にひらお苑の無料のバスが来るとわかっていたら、有料タクシーで月曜日と水曜日に来るといわれていても、そこは有料だから金曜日まで待ちましようとなるのではないと思う。例えばひらお苑の実証実験でその期間一、二カ月やめたとして、金曜日はその期間ひらお苑さんには行かないとすれば、月曜日か水曜日に買い物に行かないからタクシーを使おうかなという実験にはなると思うが、週に1回のひらお苑の車両が来るとわかっていたらそっちを待つと思う。

委員 いや、アンケートでも週に1回は、一、二回が多いにしても44%と。それでも1日か2日ですから。3日、4日の方々が37%おられて、1日から4日、5日とあわせれば80%超えるわけ

ですから、その中で、先ほどお答えになった方が言ったように、ひらお苑のはあくまで週1回ですから、そのほかの運行があったら、それはそれで十分効果があるというふうに思いますし、住民の方もそれを利用する機会というのはこのデータからもあるというふうに考えていいんじゃないかと思う、そんなにこだわる必要はないのではないかと。

委員

ビラ用の記事のほうは社会貢献活動としてやるんですから、確かに苑の都合でできないとなることはあるかもしれないが、ちゃんと続けるつもりでやってもらわないと。それを前提として、それプラス何が必要なのかということが実証実験じゃないかと思います。実証実験をやるに当たって、その前提としてもいなぎ苑の社会福祉活動が始まっていますよという、それを一つの情報として、別の上で実証実験どうしましょうかということで、我々は当然それをやる以上、社会福祉貢献活動をやる以上は、特別な理由で変わることがあるにしても、もう続いていくという期待のもとにやっていくと。それを前提にほかのところを考えるとということでいいんじゃないかと思うんですけど。

事務局

実験ということでひとくくりしているものですからちょっとわかりづらい部分があるんですが、社会貢献は社会貢献、それから、タクシー車両を利用した実証実験は確かに認可をいただくことも必要になるので実験になるのかなというふうに我々は考えている。認可をいただくに当たって、美望会と向山会をつなぐ道路が狭い部分があり、我々の考えでは多分その通行に関しては認可を得ることは難しいと考えている。美望会を通過して、平尾の中央通りを通過して平尾のバス停のほうに行くルートと、向山会から平尾団地のほうに行くルートと、ルートが全く違うこともあると思う。社会貢献活動に関しては認可は必要ないと思っている。社会貢献のほうは制限もないので利用しやすかったという結果になれば、その辺の願いは社会福祉法人のほうにもお伝えしていきたいと考えている。

会長

タクシー車両のほうは、認可のこともありますので、一定の準備期間が必要なので、とりあえず年度後半という案が出ているわけだが、ひらお苑のほうが早期にスタートをすれば、その状況がわかった上で話と考えると、そういう状況を見ながらタクシー車両のほうの中身を精査するというのも可能かなというふうに思う。

事務局

色々ご意見いただきましたので、その辺りをまとめさせていただいて、それぞれ、今後、どういうふうに進めていくかを確認した上で、皆様に、ご報告を差し上げたい。先ほど委員の方からお話ありましたが、基本的に社会福祉法人がやるものというものは、社会の流れの中で今そういった活動がどんどん増えてきていて、私たちがタクシー車両を利用した実験をやろうがやるまいが、今後続けていっていただけるつもりでお話はいただいているものだと考えている。このあたりはひらお苑ともこんなお話があると相談していきたい。市としては、不便だといわれている地域に対して、その地域の近くの社会福祉法人が、じゃあ、我々が少しやってみましょうと名乗りを上げていただいたものなので、できるだけ速やかに進めたいと思っている。すぐ4月にでも始めたいなという気持ちもあったが、若干ちょっとそういったものを整理するお時間をいただいて進めていくことになろうかなと思いますので、また、速やかに進めながらもご相談を差し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

会長 では、今後どういうふうに関地域公共交通会議を進めるか、また必ずしも会議の場で全てを順番にやっていかなくてはいけないことでもないので、あるいは書類等での話になるかもしれないが、その都度、話をさせていただきよう、よろしくお願ひしたい。

(なし)

会長 よければ、基本的にこの下平尾地区の交通不便地域の対応として、小規模コミュニティ交通の実証実験、ひらお苑での地域貢献活動としての事業と、それから市が中心となってやるタクシー車両による実証実験を進めていくことに関してはよろしいか。

(異議なし)

会長 はい。特にご異議は認められないので、若干、先ほどのような進め方で調整をさせていただく。
それでは、議題としてはその他ということになるが、何かほかに議題以外で意見・報告ある方はいますか。

事務局 日程に関しては、先ほども申し上げたとおり、実は次回、夏以降に関地域公共交通会議を開いて、タクシーに関してはそのあたりで内容を詰めていこうと考えていたが、社会福祉法人の関係もあり、また次回の日程については追って連絡をしたい。

会長 いずれにしてもタクシーの実証時期については、ここで合意を得ないと先へ進めないで、会議の設定をお願ひしたい。

会長 それでは、本日の平成30年第2回稲城市地域公共交通会議を終了させていただき。大変お疲れ様でした。